文庫めぐり (20)

津山洋学資料館

江戸時代後期の津山藩お抱えの医師であった宇田川玄随、玄真、榕菴三代、そして箕作阮甫は、洋学者として顕著な業績を残した。津山・美作ゆかりの洋学者を顕彰し、洋学資料の収集・保存・展示を目的として、津山市川崎町八二三番地に昭和五三年（一九七八）三月に津山洋学資料館が開館した。津山駅よりタクシーで五分、電話は〇八六六―二二三―三三二四、ファックスは〇八六六―二二三―九八六四、開館時間は午前九時一午後五時で、月曜日。祝日の翌日、年末年始が休館日である。常勤は下山純正館長と学芸員一名で、それに嘱託職員の女性が加わる。資料館も展示室二室、図書閲覧室、収蔵庫二室のミニ博物館である。博物館の入っている建物は特異な歴史的な建物である。大正九年建立の旧妹尾銀行、後の中国銀行津山東支店で、神社仏閣風の外観の和洋折衷の建物である。

常設展示品は美作洋学者の系統図、箕作家系譜、宇田川玄随と『西説内科撰要』、宇田川玄真と『医範提綱』『内象銅板図』、宇田川榕菴と『舎密開宗』『植学啓原』、山脇東洋と『臓志』『解体新書』、小林令助あて書簡、箕作阮甫と『泰西名医彙講』『和蘭文典』、津田真道と『泰西国法論』、仁木永祐関係資料などがある。年に一回、企画展と蘭学研究者による講演会を行っている。

現在の蔵書は三五〇〇点、史料は館蔵品と寄託品からなり、『津山洋学資料館資料目録（改訂版）』（一九九〇年刊、七〇〇円）に列記されている。また、『宇田川家勤書』『箕作家勤書』『久原躬弦書簡集』『目で見る津山の洋学』『洋学者書簡集』『津山洋学』『津山洋学資料』『黒船の渡来と津山の洋学者』『墓誌・顕彰碑文』『学問の家　宇田川家の人たち』『一滴』（洋学研究雑誌、年刊、一～九号既刊）、『講演会記録』（一と三号のみ在庫）を販売している他、『友の会だより』を年二回発行している。

『津山洋学資料館資料目録（改訂版）』に記載されているように、各種古医書、蘭学書、宇田川家関係マイクロフィルム（原本、杏雨書屋蔵）蘭学者書簡を蔵している。寄託は地元蘭学者・医師の子孫の主要一四家のものが中心である。館蔵資料、寄託資料とも閲覧は可能である。閲覧したい資料は、スタッフが少ないので、できれば前もって館に連絡した上で訪問したい。好意的に取扱っていただけるであろう。

（石田　純郎）